

ドキュメンタリー映画

# 実の草

「2・4事件」の教師たち



突然教壇を追われ、  
子供たちの前から姿を消す若い教師たち・・・  
真実がいま明かされる

ナレーション  
榎山文枝

ドキュメンタリー映画

# 草の実

「2・4事件」の教師たち

**いま、明らかになる空白の「昭和史」!**

## あらすじ

壺井栄の名作「二十四の瞳」の中に、主人公の大石先生が教材として、生活綴り方「草の実」を持っていたことで、危うく警察に引っ張られそうになる場面があります。これは1933年（昭和8年）、全国的に行われた思想弾圧によって多くの教員たちが一斉検挙された事件が背景になっています。

### ●新しい教育の風「信州白樺」

時は遡って1920年代後半、「大正デモクラシー」の風は「信州白樺」教育を生み出すなどいくつかの運動を起こしていました。教師たちは生活綴り方や自由画教育によって学校を生き活きたものにしようとしました。

### ●不況と貧困

29年には、ニューヨークで起きた株価大暴落の影響が日本にも及び、大量の失業者が生まれました。繭の生産に依拠していた農家を直撃して、借金は雪だるまのように増え、夜逃げをする

一家が続出しました。志と希望に燃えた教師の前にはボロ服をまとい、卒業を待たずに身売りされる子どもの姿がありました。

### ●貧困と戦争との矛盾に苦悩

教師たちには貧困や戦争への足音が強く感じられるようになっていました。疲弊した農村の改良政策として打ち出された「満蒙開拓」への動員は、教育の世界でも強制力を持つようになりました。不況は教師の生活をも容赦なく襲い、給料不払いの学校が次々に現れ、労働組合をつくる話し合いが始まりました。しかし、この動きは稔りませんでした。

### ●弾圧と戦争へ突入

そして、1933年（昭和8年）2月4日。弾圧の斧が振り下ろされました。やがて、日本は、「戦争」への道をまっしぐらに突き進みます…。

監督・脚本＝野口清人

制作＝山岸堅磐・石井修吾 プロデューサー＝岡野和夫

撮影＝太田久道・荒井義久 録音＝清水亮太郎 演技指導＝山本秀行

□ このDVDの復元・変更・放送および業務上映は禁止いたします。

発売元

有限会社長野映研

〒380-0805 長野市柳町45

TEL 026-232-1226 FAX 026-232-8387